

1993年 新春号



神戸ハーバーランド

(株)竹中工務店提供



久徳 敏治
新春おめでとうございます。

建築業各界は昨年よりの不況にどっぷりつかり、全く元気がありません。しかし、景気の低迷もいつまでも続くわけでもなく、新春とともに明るい話題もなくはありません。不況にあえいだ1992年も狼り、あまり大きな飛翔はのぞめないまでも、景気を西よりもどす夜明けの到来でもあります。しかしそく考えて見るに、今日の状態は平常であって、以前はあまりにもバブル過ぎたとも言えます。このような時こそ、腰を落ち着け、将来に対する体質の強化をゆるりと考えるゆとりもあるうというものです。

今年は当協会設立当初よりの懸案事項でありました“構造士”自主認定制度実施の運びとなる記念すべき年となりそうです。この制度は建築構造に関する業務に対して高度な技量と資質を有する技術者に資格を認定し、実務を通じて社会に貢献する構造技術者の使命の自覚を促し、その社会的な職務を明文化するために設けられたものです。それだけに私たち建築構造技術者はその所与の目的に恥じないような努力も求められる年でもあります。皆さんの一層のご研鑽と活発なご活躍をお願いいたします。



青柳 司
新年明までお目出度うございます。

今年はきびしい年となりそうですが、お互い頑張りましょう。景気の急変期は体質改善やリストラの好機ではあります、上昇期は気持が安易になり、また下降期はやらねばならぬと思ひながらもリスクに対する不安でなかなか実行に移せません。でも建設関連業界（設計も含む）は3Kとか下請問題とか若者に人気がありません。私は数年前から構造改善や体質改善を意識して行動してきましたが、思うようには進んでいません。今年は積極的に仕掛けて行くつもりですので、賛同される方は協力のほどお願いします。

話は變りますが、昨年は自分の不注意により骨折し入院・療養のため、初めて関西で開催されたJSCA大会にも出席できませんでした申し分けなく思っております。その償いということではありませんが、今年は時間をつくることに心掛け各方面に幅広く前向きに活動しようと思っております。何かと声を掛けさせていただけたらと思っておりますので、よろしくお願い致します。



能勢 善樹
長期予報によれば、今年の冬は例年の暖冬とは違って寒くなりそうです。人には夏型と冬型があるよう気がします。

私は冬型、つまり夏ダメ型に属します。寒さに対しては沢山着れば凌げますが、暑さに対しては裸以上に脱ぐわけにはいきません。夏型の方が得です。暑いさ中にキッチンとしたみなりをしている人を見ると、どんな育ちをしたのだろうと、尊敬してしまいます。そこへゆくと、寒さについてはかなり自信があります。多分、ルーツは北方民族でしょう。私が体验した最低温度は-40℃で、 Siberiaです。貨車に乗せられて東へ東へに向っている時の事です。ところで、今年の寒さは同時に不況の寒さでもあります。どこを向いても春の兆しは見えて来ていません。冬型に属する者としては「眠ったら凍死だ」と、ほっぺたを叩き続けるのが宜しく、夏型に属する者としては「あの暑さが懐しい」と、弱音を吐かないので宜しいのではないかとうか。

今年も、今年こそ、みなさまのご健祥をお祈りいたします。

J S C A 関西支部 オーストラリア建築視察報告

井 上 豊

大阪からパースへ
J S C A 関西支部の愉快な方々と一緒に、総勢28名で8泊9日の旅に出かけたのは昨年9月から10月にかけて、オーストラリアの春先きの季節であった。



大阪空港を昼に発ち、シンガポールで夕刻を過ぎて深夜にパースに着き、オーチャードパークホテルの部屋に落ち着いた時には午前2時頃ではなかっただろうか。ただ、日本とは時差も少なく、旅の始めでもあり、また、明るく元気な水島さんの添乗・案内で、私達は殆んど疲れは感じなかった。近畿ツーリストの水島嬢は若くて、眼も声も大きい魅力的な方で、旅の始めから終りまで、幼稚園の先生の様に私達に注意を配っていただき、おかげで快適な旅を楽しませて戴いた。

静かな街パース

パースでの初日は午後のバスツアーから始った。スワン川沿いのパースの街は結構起伏に富み、小高いキングスパークからは湖のように広がる川と、市中心部



キングスパークよりパース市街を望む

の超高層建築群、網の目のように伸びる高速道路とそれを取り組む樹々の緑、確かに美しい広々とした都市である。日曜日と云うこともあって、全体に静かでゆったりとした雰囲気が感じられた。インド洋にのぞむ広大な海岸と砂浜を見物した後、スワン川沿いのレストランでワインを味わいながら昼食を楽しみ、港町フリーマントルを訪ねた。古い街並

み、監獄の跡などを見物し、ここだけは別世界の様に眠わっている日曜市・マーケットの雑踏の中に流れ込んだ。実にいろいろなものが売られており、また、それも安価のようである。グループの皆さんには、それぞれ袋を幾つもかかえて人混みと露店を楽しみ、バスへ戻った。夕食はパースに戻り、対岸のホテルレストランで夜景を楽しみながら進み、グループメンバーも互いになじみ、談笑の中に夜が更けて行った。

翌日のバスツアーは、朝食後、キングスパーク、モンガー湖のブラックスワン、海浜の高層ホテル見学の後、パース動物園へ足を伸した。美しく広い園内では、折角の訪問客にも愛想なしに眠りつづけるコアラやカンガルーを遠目に見て、ホテルに戻った。三々五々街に繰り出して昼食となり、静かに落ち着いたパースの街の新しい部分、古い部分を足で歩いてみて、街の印象をゆっくり味わうことが出来た。

夕暮れにパースを発ち、約4時間の空の旅でメルボルンに着いた。

少し寒かったメルボルン

メルボルンの初日は今にも降り出しそうな曇りで、やや肌寒い感じであった。まず、市中心部の大丸デパート等を含む再開発ビルを訪ねた。複合機能を持つ建物であって、外観の新奇さもさることながら、内部の架構、鋭い円錐形の吹抜け部、保存されたレンガ造の工場跡など、いろんな顔を持っていた。ついで広大な公園へ廻り、美しい芝生の拡がりの中で珍らしい花を咲かせている樹々の間を抜

けて、キャプテンクックの家とその庭園を見物した。クックの家は彼にちなんで英国から移されたとのことで、素朴な生活ぶりがうかがえ、また、庭には色とりどりの花が咲き乱れていた。

木造コテージ風レストランでのビュッフェスタイルの昼食を済ませ、お目当てのナショナルテニスセンターへ向った。厚ぼったい曇り空の下、シーアンドシー社の方々の出迎えを受け、新装なったセンターコート棟を見学した。テニス四大トーナメントの一つ、全豪オープンの決勝のコートとなるものの他に、数千の観客席を持つ二つの屋外コートを有しております、センターコートは15,000席を擁し、可動屋根に覆われていた。トーナメント開催時にはこれが両側に移動して開き、屋外コートとして使用される訳で、通常は殆んど閉じた状態で種々のイベントが開催されるようであった。当日もイベント準備中で、コート中央部にステージが組み立てられていた。エレベーター、階段、タラップによって可動屋根の上に出て、その構造などをつぶさに見学した。メンバーの皆さんには屋根の拡がり、トラス鋼管の細さ、部材の組み方など、屋根の上を歩きまわり、手で触れて確認していた。その後、集会室で説明会が持たれ、工事の概要、工法、工事発注や契約の仕組み等の説明があり、熱心な質疑がなされた。

現地セミナー「制振・免振」の後、夕食は中心街のホテルで中華料理に舌づみを打ち、当日の大変な勉強の疲れを紹興酒によって楽しく癒やした。

翌日はファームを訪ねるバスツアーに



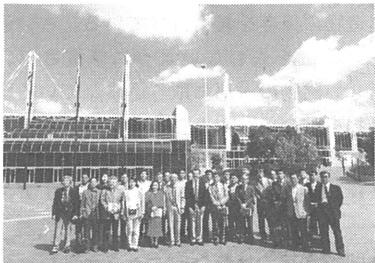
テニスセンター開閉屋根の上にて

参加した。メルボルンから東南へ約1時間走って、牧草地の広がる丘陵に位置する観光牧場へ到着した。近くの小学生の団体なども集っており、赤々と燃える暖爐の周りの種々の教育展示物を眺めながら説明の始まるのを待った。やや広い階段教室の壇の方も階段状に作られており、説明者の解説のあとで、名前を呼ばれた羊や牛が、控え室から順に出て来て、階段をトコトコと登り、自分の名札の所にきちんと行く様子を見ていると、よく仕付けたものだと感心した。その後、バリカンによる羊毛の早刈りが披露され、また、牛乳しぶりを体験し、屋外では牧羊犬の囲いへの追い込みの実演などを見物した。昼食はTボーンステーキのバーべキューで、その大きさに歓声が上った。

明るく大きな都会シドニー

夕刻にメルボルンを発ち、1時間でシドニー着、ホテル日航ダーリングハーバーへと向った。夕食は入江対岸の再開発地区のレストランで、山のように盛られたシーフードをビール・ワインを飲みながらの楽しく弾んだ語らいとともに満喫した。夜景を眺めながら、木造の古い橋を渡って帰る時、食後の夜風は気持ちよい涼しさであった。

翌日は第2回目の技術交流会で、市ダーリングハーバー開発局の方の説明と案



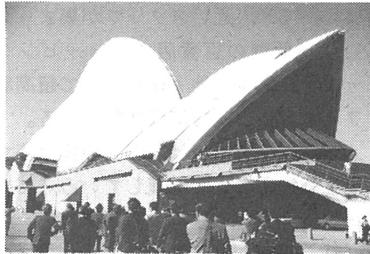
ダーリングハーバー・コンベンションセンターの前で

内で、コンベンションセンターのオフィス棟、集会施設、展示棟を見学した。骨組みには鋼管が多く使われており、



ハーバーブリッジよりオペラハウスを望む

船をイメージさせる軽快な感じの構造であった。広場の一角の中国庭園も見学させて戴いた後で市内見物に移り、ハーバーブリッジ、橋を渡って対岸から橋越しにオペラハウスを眺め、帰りは竣工間もないハーバーポートネルを抜け、王立植物園、マックオーリー人岬などを通った後、サーキュラーキーのレストランで昼



オペラハウスの見学

食となった。午後は、まずオペラハウスに行き、設計者の説明を受けながら見学した。さらに、オパールの加工場を見物し、十二分に眼の保養をさせて戴いた。

翌日は朝一番にシーアンドシー社の現場事務所を訪ね、ダーリングハーバー再



シーアンドシー社スタッフとの交流会の様子

開発の全体像、日航ホテルの構造計画や意匠決定の経緯、また、現在施工中の再開発ビルの建築計画や構造計画の説明を受けた。質疑は熱心に、コンクリート強度から工事費や各資材単価、作業員の給与にまで及んだ。工事建物の見学では、工事用エレベーターに分乗して、29階の屋上から建物内部を貫通する道路の様子を見下ろしたり、シドニー湾の全景、ダーリングハーバーの再開発建物の拡張などを展望した。現場事務所で用意し

て戴いたスナック風の手軽な昼食の後、8年後の2000年オリンピック誘致とその施設などの説明と質疑をもって見学を終り、フットボール競技場、市内のその他の再開発ビルの見学など、種々の技術的な勉強の一日であった。

夕方の僅かの自由時間を利用して、一周10分間程度の市内循環モノレールを一周半回り、また、シドニータワーへ登って街全体の様子を見物した。そして、今回のツアーの最後の夜として、夕食を楽しみながらのショーボートによる湾内クルーズに出かけた。ステージで歌や踊りのショーを横目に、ワインで愉快なフェアウェルディナーとなつた。

オーストラリア出発日の午前中は自由行動、土曜日とあって市内は至って静かであり、メンバーの人達は最後のショッピングに、散歩にと出かけた。私も数名の人達と一緒に植物園から美術館へと足を伸ばし、珍しい花々や、多くの野鳥たち、また、美術館では、オーストラリア出身の画家達の油彩作品を見物した。美術館は大変立派な建物で、中もとても広く、1・2時間では到底全部のフロアは回われず、残念であった。

いよいよ帰途へ

午後は各自の荷物をまとめ、いよいよ帰途へと云うことで、ほっとした安堵感とともに一抹の寂しさの混った中でバスは空港へ向った。シドニーを午後3時発、夜9時にシンガポール着、4時間の休憩の後、大阪へ出発となった。シンガポール空港では、例によってワインを楽しみながら、懐しの味のラーメンをすり、旅のあれこれに話の花が咲いた。私だけは引き続き、中国上海での日米中の三ヶ国制振ワークショップ参加のため別便となって、ツアーメンバーの方々を名残り惜しみながらシンガポール空港で、ゲートに向うへ進んで行かれるをお見送りし、本当に楽しく、収穫の多かった今回の旅行を締めくくった。

旅行中、終始親身になってお世話をされた田中・八木・山本の3名の幹事さん、添乗の水島さん、さらに久徳名誉団長をはじめメンバーの皆様全員に、ここに心からの感謝を申し上げ、また、お返しする日のあることを思いつつ旅行の報告と致します。

(大阪大学工学部建築工学科教授)

オーストラリア海外研修会

中部支部 深尾 章由

大阪国際空港を12時に出発し、シンガポール経由で11時間後に西オーストラリアの州都パースに到着。いよいよ9日間の建築視察旅行のスタートである。

☆ パース

夜中にホテルに着いたので数時間しか眠れなかつたが早朝目覚め、カーテンを開けるとパースの街並みが飛び込んできた。“世界で最も美しい街”といわれるパースに来たという実感が沸いた。

パースは1829年、イギリス植民地として開拓され、その後19世紀後半にかけて沢山の金鉱が発見され、ゴールドラッシュ期を迎えた。このとき一攫千金を夢見て移り住んだ人達によってさらに開拓された町である。現在はスワン川沿いに広がる最も発展した近代的で美しい町である。

初日は、パースからバスで30分程のフリーマントル。マーケット通り沿いにレンガ造りの古い協会、ホテル、しゃれたカフェパブなどが立並び、いかにも港町らしい雰囲気をもっていた。

翌日はキングスパークへ。400haの面積を持つこの公園ではオーストラリア原産の様々な樹木や、原生の草花をはじめとし、世界中の植物が生い茂っている。

また、山頂からは広々としたパースの街並みとゆったりと流れるスワン川が見下ろせ、それは最高の眺めであった。

碧い空と緑の木々、ワイルドフラワーに囲まれ、一日中ボーッとしていたい気分になる。私はすっかり日本での仕事の忙しさを忘れてこの町に酔いしれてしまった。

☆ メルボルン

時々雨が降る空模様のせいか町全体が暗く寂しく思えた。最近では古い建物を壊して新しいビルに建て替えつつあるが、まだイギリス植民地時代の建物も数多く残っている。

都心の1街区に「メルボルン・セントラル」がある。敷地面積は2万6千m²、延べ面積26万m²以上にも及ぶ。総事業費約1200億円、民間プロジェクトとしては最大のスケールである。1984年州交通省

によって実施された事業コンペで熊谷組が射止め、コンセプトデザイナーとして黒川紀章氏が参加され、一時期には地元設計事務所をはじめ多くのコンサルが参加し、300人近いスタッフが集まつたという。低層の百貨店、ショッピングモール、駐車場、地下鉄駅そして超高層オフィスビルよって構成されている。

メルボルン市内では200余の将来残すべき建築物を指定、保護している。このプロジェクトにも「ショットタワー」と呼ばれ、むかし船の銃弾を製造していた工場を現状の位置に保存し、それをインテリアに取り組んで、透明な巨大な円錐形のアトリウムを作っている。ショッピングモールは歴史的建造物と新しい建物との共生を造り出していた。

午後はナショナル・テニスセンターを見学。多目的センターコートは1万5千席を備え、固定屋根とは別にコート上部を覆う幅30mの移動式の屋根が設けられており、全豪オープンテニスのような屋外スポーツでも屋内エンターテーメントでも目的に合わせて利用が可能になっている。この建物の設計・施工は今回の旅行で多大なお世話になったシビル・アンド・シビック社によってなされ、設計に携わった方々の説明及び案内があり、同センター内で活発な質疑応答を行なつた。夜は、井上先生の現地セミナーと充実した一日であった。

☆ シドニー

最後の目的地シドニーに着いたのは、夕方6時を過ぎていた。翌朝、今回の目的の一つであるウォーターフロント開発が進んでいるダーリングハーバーの見学である。かつて、この一帯は大陸鉄道で運ばれてくる石炭や羊毛などの物産を船積みするための貨物ヤードが並ぶ物流の拠点であった。時代とともに建物の老朽化が進み、荒廃して倉庫街になっていた。1984年、州政府により再開発することを決定し、わずか4年というスケジュールの中で、設計の進行に伴い逐次分割発注しながら施工を進めていく、ファースト・トラック方式が採用されたという。

コンベンションセンター・エキシビションセンター、中国式庭園、ウォーター・フロント・プロムナード、マーケットプレイスを開発局のリチャード氏に案内していただき、シドニーのウォーター・フロント開発の一部を見ることができた。つづいて、シビル・アンド・シビック社の施工中の建物を見学した。現場事務所の一室で設計及び監理スタッフとオーストラリアの建築事情はじめ、構造設計に関する情報、施工上の監理体制等、色々と意見の交換が活発になされた。



その他シドニー・オペラハウス、もう一つのウォーター・フロント開発地、ザ・ロックスへと見て回った。

オーストラリアは建国200年という若い国でありながら、歴史的な価値を持つ建造物の保存を義務付けている。古い建物の特徴を失わないように修復され、新しい建物の一部に取り込まれている建築物を町のいたるところで見ることができた。

建築視察だけでなく、ビクトリア・ファーム・シェッドでの羊、牛及び酪農に関するショーを見、オージー・バーベキューでビッグなT・ボーンステーキを食べ、またシドニーでは夜のキングス・クロスを散策し、シドニー湾ディナークルーズでフランス料理を賞味しながら湾内から眺めるシドニーの夜景とライトアップされたオペラハウスはオーストラリアのイメージそのものであった。

今回、中部より参加させていただき、大変有意義な楽しい9日間でした。

井上先生、久徳支部長、幹事の方を始め、皆様方には大変お世話になり、有り難うございました。

(丹羽英二建築事務所)

関西支部技術委員会の報告と紹介

関西支部において活動中である技術委員会の7分科会の紹介と活動報告をします。

分科会はそれぞれ活発な活動をしています。会員の方ならどなたでも参加していただけます。各分科会共、

気軽な雰囲気で意見の交換をしています。

なお、複数への参加も可能ですので皆様の積極的な参加を期待します。

R C構造分科会から

須賀 好富

R C構造分科会から鉄筋コンクリート構造における諸問題(材料、構法、工法)について勉強、情報交換している。1993年は混合構造を取り上げるつもりなので会員諸兄の積極的な参加を期待する。

さて、R C構造はコンクリート・鉄筋の材料の高強度化も進みつつある。それに関する設計・施工の現況も興味ある問題である。

また型枠工法もシステム型枠を中心としてかなり在来工法から脱皮してきた。設計にあたっては新工法を念頭に入れて行なわねばならないので、これらの工法についても注目していきたい。

P C分科会

徳永 雄一郎

P C分科会と工業化構法分科会(土居主査)は、話題に共通性があり、メンバー(現在21名)も重複するので、2ヶ月に1回合同で、定例研究会を開いています。

P C構造に限定した活動は、「はじめてのP C・P R C構造」の出版と、同書をテキストとした講習会(H. 3.12)の開催で一段落として、平成四年度からは、R C・S R Cも含むコンクリートによる工業化構法をターゲットに研究会や資料の収集を続けています。平成5年度には見学会等も企画する予定です。

さらに将来、資料の蓄積を待って、「はじめての—工業化構法編」を発刊しようとメンバーで話し合っています。参加希望の方の御連絡をお待ちします。

鉄骨分科会

内田 直樹

関西支部の鉄骨分科会のメンバーも昨年から27名に増加したため、運営方法やテーマの選定法に関して平成3年度に実施したアンケートをもとにして検討を加えました。運営や企画に関しては少人数の委員を中心に、またテーマを決めて発表会や見学会を行うときは全員参加ですることにしました。昨年の前半はこ

のような議論をしながら6月の「技術フォーラム」の準備やサポートワークに終始しました。また、「P & G日本本部・研究所ビル」の軸体が完成した頃、竹中工務店丸岡次長の案内で、現場見学を行いました。吊り構造に挑戦した構造設計の説明や鉄骨施工の苦労話を興味深く聞くことができました。秋には恒例の全構連の各種講習会や試験に当メンバーで手分けをして対応しました。

基礎構造分科会の活動

棚橋 秀光

関西支部の基礎構造分科会のメンバーは現在22名で、設計事務所・建設会社の技術者その他、杭メーカー、土質調査関係の技術者も参加を得ています。活動としては、2月に1回、定例分科会を持ってきました。今年は、地盤改良工法の紹介として、サンドコンパクション、動圧密、浅層混合、ケミコパイプ等を2回、本設地盤アンカー、連続地中壁を本設利用した大深度立体駐車場の実例紹介、関西国際空港の旅客ターミナルビル・管制塔の設計紹介などが主なテーマでした。ひきつづき、新しい技術の紹介や会員の関心のある話題について、とりあげていきたいと考えておりますので、関心のある会員諸氏の参加を期待します。

耐震設計分科会活動報告

金澤 正明

『構造設計上適切な剛性評価は?』をテーマとして、分科会活動を続けてきましたが、発散しようとするテーマを何とかこの辺で一旦纏めて、そろそろ新しいテーマを設定しようかと話し合っている段階です。

分科会は、2ヶ月に1回、概ね奇数月の最終火曜日に、18時から20時の2時間を原則に、常に北浜ビジネス会館の602-B室を会場として開催しておりますので、時間があれば一度覗いて下されば幸甚と存じます。

決して“研究会”と言った堅苦しいものではなく、長続きする“気楽な集まり”をモットーとしております。

コンピュータ分科会 '92年の活動

辻 英一

'92年は新春の放談会につづいて、建築の隣接分野である土木のコンピュータ利用について見聞をひろげることにした。すなわち、3月は大和ハウスで住宅設計でのユニークな利用を見学したあと、5月奥村組・7月鴻池組・9月日建設計・11月大林組と各社を訪問し、土木部門での利用を見せてもらった。総論で紹介してもらったところもあり、各論にしぼって説明してもらったところもあり、各社毎にプレゼンテーションに配慮してもらったので、土木での利用の全容が見えてきたことが成果である。ただ、共通のキーワードである「構造」にしぼった、例えば、土木での限界状態設計法のありようや諸問題などビジュアルに表現できない、もうすこし詳細な実情についても議論したかったと思っている。

平成4年度構造計画分科会報告

八木 貞樹

当分科会も発足以来3年が経過しようとしている。分科会に出席するメンバーも常に10~15名程度と一定しているが、顔ぶれは毎回数人づつ替わり、新しい人も増え広い輪ができるつつある。主査の怠慢から過去2年間に比べて活動がにぶくなったり点を反省し、本年はより活発に活動したいと考えている。年末には約20名のメンバーで恒例の忘年会を兼ねた分科会を楽しく行った。4月以降の主な活動は分科会4回、現場見学会2回の他、StructureやStructure Kansaiの原稿協力の依頼が3回あり、数人のメンバーに執筆をお願いした。本年は通常の活動以外に専門書の翻訳や懸案の関西超高層建物のデーターシート化の作業も行う予定である。また、見学会は好評なために数件を予定している。当分科会に興味のある方は、事務局または八木(TEL 06-946-2840)まで。

会員紹介

角 浩一

(株)日建設計
大阪構造設備事務所
構造部

読書、旅行、水泳

5年前から水泳を始めました。

最近は1ヶ月に10kmを目標に、週2回程勤務時間後に水泳教室に通っております。又その日を休肝日としています。

お陰で高血圧、糖尿、肥満等の成人病の兆しが消えました。一生水泳を続けられる様に又、構造設計へのタフな体力と精神力を養う為に精進しております。



上館 隆

(株)山下設計



旅行、釣り(年1回)

構造設計に従事してもう少しで20年。忙しさが加速されてきている感じがします。先日、南紀へ釣りに出かけました。目標は鯛でしたが釣れてくるものは鯖、メバルのみ。こちらのコマセがきいたのか背後の人のが60cmクラスの本鯛を釣り上げていたようです。来年こそは小さくとも鯛様にお会いしたいと思っています。

● 支部の動き

- 11/13 支部役員会
- 12/16 広報委員会
- 12/1 海外研修会反省会
- 12/18 J S C A 京都会
「わが国における合成・混合構造の研究の動向」
講師：南 宏(福山大学教授)
於：カラスマプラザビル21
- 12/14 建築11団体合同忘年会
於：太閤園ダイヤモンドホール
- 1/4 建築11団体新年交礼会
於：大阪コクサイホテル
- 技術委員会分科会活動
構造計画 12/8
コンピュータ 11/19
基礎 8/4・10/6・12/11
P C、工業化工法 5/19・7/23・9/17・11/19・1/19
耐震設計 11/24
- 親睦会
ゴルフ同好会 11/12 於伏尾GC40名
囲碁同好会 11/28 於囲碁サロン「爛村」15名

● 事務局のお知らせ

平成5年度の支部総会を来る5月18日(火)午後1時に開催する予定です。1年に一度の総会ですので万障お繰り合わせの上ご出席を予定して下さい。

山本 貞次

(株)東畠建築事務所
大阪事務所 構造部



写真、ドライブ

初冬の丹波路や早春の西播磨などを旅し歴史の重みと共に季節を感じるとき、地域の人々の生活というものを考慮に入れないと本当の意味で「見て、知って、愛して、共に創る」という関わり合いをもつことができないと思います。建築との関わり合いの中で、構造設計もこの視点と無縁ではすまされないと感じる私です。

東 健三

(株)清水建設
設計本部
大阪支店設計部



木模型の作製

建築構造設計に従事して20余年、工場・事務所・寺など多種多様な建物を経験をし、そろそろ頭の中をリフレッシュしなくては頭が堅くなり、感性が麻痺しあげた所でした。平成元年にJ S C Aに入会をし、会員の方々の御話しへ伺い視野を広め徐々にリフレッシュに取り組んでいる毎日です。

西村 泰之

(株)大林組本店
建築設計第七部



写真、ドライブ

構造設計に携って20年余、組織に潰つて規準やマニュアルに従って忙しい忙しいと言いながら設計しているとつい深くは考えない。考えなくても処理できる。正に設計の流れ作業である。

このあたりで、今一度構造へのロマンを新たにし、心を通わせていくと思う。

J S C A 入会を良い機会にしたい。

坪田 収

(株)坪田収建築設計
事務所



釣(メジロ・マグロ・ケイ)

東京より姫路に帰り、事務所を設立して早や11年となります。構造設計を主として、6・1・4まで、行っています。姫路のこととて、より大きな夢と、ロマンと人生を求めて神戸・大阪・京都・東京・何処へでも出かけてまいります故、皆様よろしくお願い申しあげます。

第18回 J S C A 会 成 績 表

平成4年11月12日(木)
於 伏尾G C

参加37名 ★印 初参加

	氏 名	南	西	GROSS	H. D	NET	RANK		氏 名	南	西	GROSS	H. D	NET	RANK
1	日下部 弘	51	40	91	22	69	優勝	20	★山口 正雄	54	52	106	25	81	20位
2	竹ノ上 幸一	51	50	101	31	70	2位	21	長田 正雄	55	53	108	26	82	
3	眞塙 達夫	45	38	83	12	71	3位	22	木下 弘文	49	47	96	14	82	
4	岡田 英昭	45	42	87	16	71	4位	23	八木 博繁	57	54	111	18	83	
5	和田 勉	51	46	97	25	72	5位	24	谷丸 正英	53	48	101	18	83	
6	青木 仁	42	42	84	12	72		25	菊田 久	54	57	111	27	84	25位
7	★須見 光二	44	46	90	18	72	7位	26	伊藤 孝	58	46	104	20	84	
8	馬瀬 芳知	43	38	81	8	73		27	水野 富雄	56	53	109	25	84	
9	安田 光世	49	40	89	16	73		28	江西 修	48	51	99	15	84	
10	松浦 英一	52	54	106	33	73	10位	29	川村 鑑一	64	54	118	33	85	
11	保野 博	49	52	101	27	74		30	五十嵐 定義	59	56	115	29	86	30位
12	梅木 信正	42	43	85	10	75		31	★宮永 武彦	53	57	110	23	87	
13	犬飼 一夫	51	46	97	22	75		32	宮本 義博	51	49	100	12	88	
14	谷尾 俊弘	50	48	98	23	75		33	★河本 純	62	56	118	30	88	
15	山田 裕治	51	50	101	26	75	15位	34	宮野 植三	52	57	109	20	89	
16	西畠 広道	46	44	90	15	75		35	高橋 尚	57	59	116	25	91	
17	浅沼 勝	44	45	89	13	76		36	近藤 正広	59	60	119	25	94	B.B
18	後藤 文吉	52	48	100	23	77		37	勝丸 文彦	62	59	121	26	95	
19	渡辺 博	49	51	100	22	78									

ニアビン：竹ノ上・梅木・日下部・後藤 ドラコン：木下・青木 ベスグロ：馬瀬
次回ハンデ：日下部 16・竹ノ上 27・眞塙 11 平均ストローク：101

編集後記 不況不況で明けた93年ですが、J S C A 京都会も発足し、我々のメンバーは活躍されており、たのもしく思っております。今号は豪州視察研修会をテーマに編集しました。井上教授にはご多忙の折、ご寄稿いただき厚く御礼申し上げます。会員紹介では紙面の都合上次号にさせていただいた方にはお詫び致します。(三輪・長谷川)